

2020 年度 事業計画

慶應義塾は、福澤諭吉創業以来、民間有志の協力によって経営される「義塾」の伝統を守りながら、学問を修め、世の中の流行に惑わされず、主体的に世の中の進むべき方向を考える独立自尊の人材を社会のあらゆる分野に送り出してきました。

今、時代の変化の中で、義塾は研究力の向上、国際化の推進を柱に、新たな進化をめざしていますが、社会を先導する多様な人材を育成する使命は変わりません。優れた教育は優れた研究に支えられてこそ可能であり、優れた研究にはまた優れた人材が必要です。

幅広く奥行きのある教養教育と高度な専門教育を通じて、豊かな人間性と独創的な思考力を備え、変革を恐れず新しい価値観を創出しようとする人材を育成することが総合大学としての慶應義塾の使命です。

小学校から大学・大学院までの一貫教育の向上、伝統ある学問分野と先端研究の連携、財政基盤の確立と人材獲得を可能にする法人経営の強化を進めます。

慶應義塾は学問の府としての原点を忘れず、教学と経営の両輪が協力して、教育・研究・医療を強化し、社会に貢献する学塾としてさらなる発展をめざします。

慶應義塾長 長谷山 彰

2020 年度事業計画 — 基本方針と大綱

- I 教育・研究・医療の持続的な向上を図る。
- II 少子高齢化による社会構造の変化、グローバル化の拡大、テクノロジーの急速な進歩、気候変動・自然災害の多発など人類をとりまく諸問題の解決に、学問を通じて貢献する。
- III 教育・研究・医療環境を充実するために財政基盤の強化に努める。

これらの「基本方針」を基に、以下に事業計画の「大綱」を定める。

1. 先端技術の高度化が急速に進む社会において、総合大学の強みを活かし、自然科学と人文・社会科学の連携によって、テクノロジーと人間の調和がとれた人類社会の実現に貢献する。
2. 国内外から多様な学生が集まる学塾を構築し、日本社会を支え、世界で活躍する多様な人材を育成する。
3. 慶應義塾の多様性を確保し、特色ある教育を実践するために、一貫教育の充実に努める。
4. 海外の優れた研究者の受け入れ、海外の大学・研究機関との共同研究、研究者間の交流を推進するために、施設・組織など研究体制の充実に努める。
5. 社会に生じる新たな課題を解決できる高度な専門性と総合的な対応力を備えた人材を育成するために大学院教育の充実に努める。
6. 大学運営を高度化・効率化し、教育・研究・医療の向上を支援するために、IT化の促進とシステムの改修・構築に努める。
7. 教育・研究・医療の成果を世界に発信し、義塾の国際的評価の向上を図るとともに、義塾の学問の伝統を継承しつつ、文化を創造・発信する拠点の整備に努める。
8. 学生、生徒、患者、教職員等の安全の確保とキャンパス環境の向上を図るため、施設の改修、建設などを計画的に進める。
9. 教育の自律性、研究の自由を守るために、自己資金の拡大、充実に努める。
10. 日本各地で発生する自然災害の状況を踏まえ、教育・研究・医療を通じて社会の復興に寄与するとともに、被災学生の支援に努める。

以上

中期計画

1. スーパーグローバル事業推進をはじめとする、教育・研究の国際化の一層の推進
2. 国内外における慶應義塾のブランド力向上のための全塾的な情報発信力の強化
3. 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金および小泉信三記念慶應義塾学事振興基金などの強化に基づく教育・研究事業の推進と奨学金の拡充
4. 大学院生や若手研究者育成を目的とする、RA、研究奨励助教など、諸制度の拡充と奨学金の充実
5. 個人の主体性と選択を重んじながら、環境の変化や多様な価値観に即応できる柔軟で複線的な人事制度全般の充実、およびグローバル人材が活躍できる環境整備の促進
6. 一貫教育校における国際化のさらなる推進、少人数教育の実施および各校の教育における連携の強化
7. 医療安全管理体制の強化、高度医療技術の開発、高水準の臨床研究の推進を図るとともに、オリンピック・パラリンピックへの対応やAI ホスピタル事業を通じた新時代の医療人の育成
8. 高度化する世界の教育・研究・医療の潮流の中で、世界水準のデータ活用能力を発揮できる情報基盤の確立。そのための ICT ガバナンス体制の実施体制の充実、義塾の ICT 基本戦略立案とそれに基づく情報基盤への投資の増大、デジタルトランスフォーメーションの推進を通じた組織運営の効率化
9. 知的財産に関する戦略の構築と研究成果の事業化・産業化の推進
10. 情報セキュリティインシデント対応チーム (CSIRT) を構築し、サイバーセキュリティ体制の一層の整備・強化
11. 教育・研究・医療のコンプライアンスに関する法務体制の強化
12. リカレント・生涯教育の推進と拡充、社会・地域連携の推進
13. 学術資料展示施設の開設準備の加速化
14. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける英国チームの受け入れを契機とした、国際的なレピュテーションを向上させる施策立案と実施

1. スーパーグローバル事業推進をはじめとする、教育・研究の国際化の一層の推進

■教育

1. 世界各地の有力大学との交換留学の推進と、新規の協定校開拓、プログラム開発とさらなる充実による質の高い留学生の受け入れ・派遣の実施

【新規】

- (1) 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 — Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム (JEMARO) の実施
- (2) 国際センター管轄の派遣交換留学制度の見直しと学部・研究科との連携強化
- (3) 日本人学生による留学生受け入れ体制の整備 (チューター制度に代えて)

【継続】

- (1) 医工薬連携の最先端医療を米国で学ぶユタ大学短期留学プログラムの実施
- (2) 薬学部薬学科 6 年生・薬学研究科薬学専攻生の米国およびタイの提携大学における「海外アドバンス実習プログラム」の実施
- (3) 塾生短期留学支援のための「創立 150 年記念奨学金海外学習支援」プログラムならびに優秀な外国人留学生受け入れのための「未来先導国際奨学金」の活性化
- (4) 総合政策学部、環境情報学部における北京外国語大学日本語学部在籍生の第 3 学年編入制度の実施
- (5) 看護医療学部における海外連携 4 大学 (ウルチ大学 (韓国)、復旦大学 (中国)、サフォーク大学 (英国)、ワシントン州立大学 (米国)) との短期留学受け入れプログラムの安定化と共同研究の推進

2. 英語による学位取得プログラムの実施とさらなる充実

【新規】

- (1) 学部・大学院における英語による学位取得プログラムの開発
- (2) 研究科横断型の大学院英語プログラム設置を契機とした、海外の主要協定校と学内での教育研究連携の強化
- (3) 増加する英語プログラムに対応した留学生向け日本語教育体制の再構築ならびに日本語・日本文化教育センター設置の別科日本語研修課程の見直し

【継続】

- (1) 「Global Information and Governance Academic Program(以下 GIGA プログラムと略す)」を中心とした、総合政策学部・環境情報学部をはじめとする SFC 全体の国際化推進
- (2) 経済学部における 4 年間一貫して英語で経済学を学ぶプログラム「Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership (PEARL)」の実施

3. 4 学期制対応科目の開講と、4 学期制等を活用した多彩な短期プログラムの実施とさらなる充実

【継続】

- (1) 理工学部・理工学研究科における 4 学期制対応科目の開講とこの枠組みを活用した継続性のある短期留学生受け入れプログラムの実施
- (2) 商学部における国際化推進のための英語による選抜・認証型プログラム (学部 3・4 年生対象)

「Global Passport Program (GPP)」の実施

- (3) 法務研究科における LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働による「アジア発グローバル法務人材育成プログラム (Program for Asian Global Legal Professions : PAGLEP)」を通じたグローバル法曹人材育成の促進強化
 - (4) 国際センターにおける Keio Summer Program (KSP、春学期後半設置)のさらなる充実
 - (5) 国際センターにおける Thesis@Keio (最長 90 日間の個別論文指導プログラム) の再整備と戦略的な展開
 - (6) 国際センターにおける短期受け入れプログラムの学部・研究科との連携強化による受け入れ拡大
4. 世界各地の大学との連携協定に基づくダブル・ディグリープログラム、交流プログラム、コンソーシアムの実施とさらなる充実

【新規】

- (1) 既存の英語学位プログラムと海外有力大学との連携強化
- (2) 復旦大学をはじめとする中国有力大学との連携強化

【継続】

- (1) 経営管理研究科による、世界 10 か国のビジネススクールによるグローバルな経営革新を目指す「エグゼクティブ MBA コンソーシアム」の継続
- (2) メディアデザイン研究科、Royal College of Art/Imperial College London (ロンドン)、Pratt Institute (ニューヨーク) の 3 拠点 4 大学が協働して実施するトランス・ナショナルプログラム「Global Innovation Design Program (GID)」の継続
- (3) メディアデザイン研究科と Stanford University (教育学研究科、工学研究科) が協働して実施する「KMD-Stanford “Joint Project-Based Global Learning” Program」の継続
- (4) 薬学部における米国 4 大学薬学部生およびタイ王国コンケン大学薬学部生の日本薬学研修プログラムと本学学生との交流の実施
- (5) 薬学部生のタイ王国薬学見学研修プログラムの実施
- (6) 薬学部薬学科 6 年生・薬学研究科薬学専攻生の米国での医薬品開発に関わる「アドバンストレギュラトリーサイエンスプログラム」の実施
- (7) 健康マネジメント研究科と University of Washington 看護学部博士課程との協定による Visiting Graduate Student Certificate of Attendance 取得制度の実施
- (8) 商学部と ESSEC Business School (エセック経済商科大学院大学) とのダブルディグリー・プログラムの実施
- (9) 経済学部と Università Bocconi、Sciences Po (パリ政治学院) との学部・修士 5 年プログラムによる学生派遣

5. 学部・研究科の連携による各種プログラムの実施とさらなる充実

【新規】

- (1) GIC センターの三田への展開を契機とした国際センター講座の見直しならびに学部・研究科による英語科目の提供

【継続】

- (1) 経済学研究科・商学研究科・メディアデザイン研究科と「CEMS, the Global Alliance in Management

Education」が実施する CEMS MIM(CEMS Master's in International Management)の継続的活用

- (2) 博士課程教育リーディングプログラムの実施（「超成熟社会発展のサイエンス」/「グローバル環境システムリーダープログラム」）

6. 学修成果の可視化を踏まえた多様な人材育成のためのカリキュラム充実のための見直しの推進と実施

【新規】

- (1) ナンバリング実施によるカリキュラム体系化の実施

【継続】

- (1) GICセンター(Center for Global Interdisciplinary Courses)による、英語（またはその他の外国語）による授業を一定単位取得した学生に修了証を与えるプログラムの実施

7. その他

【継続】

- (1) 志木高等学校独自の交流プログラム（豪州、台湾、フィンランド）の一層の充実

■研究

【継続】

- (1) KGRI(Keio Global Research Institute)の組織強化と活動環境の整備
- (2) 国際発信力を高めることを目的としたインパクトファクターの高い論文誌への投稿推進補助
- (3) クロスアポイントメント制度を活用した海外副指導教授の招聘

■医学・医療

【新規】

- (1) 学生・ポスドク・若手教員の海外研修および国際交流の一層の促進
- (2) 海外協定大学・研究施設との連携による合同シンポジウム等の開催

【継続】

- (1) 日本医学教育評価機構(JACME)の評価を踏まえた国際認証に基づく教育プログラムの実装
- (2) 国際共同研究（基礎・臨床）の充実、炎症・再生・がん・長寿研究を中心としたグローバルネットワークの形成、および国際共著論文発表の促進
- (3) 連携協定を結ぶ海外の大学・研究施設のさらなる拡充

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) GIGA プログラム学生のための日本語・日本文化教育の強化

【継続】

- (1) 留学生と日本人学生がともに暮らし学ぶ国際交流宿舎の環境整備と拡充

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 大学の世界展開力強化事業(EU)(2019 年度～2023 年度)のプラットフォーム構築大学としての業務

の遂行

【継続】

- (1) 義塾ウェブサイトを中心としたコンテンツの発掘・発信とそれを維持する体制づくり
- (2) 『三田評論オンライン』を活用した発信コンテンツの拡充
- (3) スーパーグローバル大学創成支援事業（2014年度～2023年度）の目標達成に向けた各種制度・プログラムの管理・運営、実効性の検証、事業後の自走化に向けてのロードマップの作成・検討
- (4) 全塾レベルのグローバル戦略の企画・立案・遂行支援、ダボス会議 GULF（世界学長会議）・APRU・APAIE等の海外大学コンソーシアムにおける活動の推進支援
- (5) 海外の大学・機関との交流協定締結を含む連携支援、グローバル・アドバイザー・カウンスル（海外の有力大学学長から構成される塾長諮問機関）の運営、スーパーグローバル大学創成支援事業に即した全塾横断的な国際会議・イベント・プログラム等の企画・推進および戦略的パートナーシップの形成支援

2. 国内外における慶應義塾のブランド力向上のための全塾的な情報発信力の強化

■教育

【新規】

- (1) 多様で優秀な学生確保のための大学院広報の実施

【継続】

- (1) 「Distinguished Lecture Series」と題した国内外著名講師による公開講演の実施
- (2) メディアデザイン研究科におけるキャンパス独自の研究成果発信の取り組み：“KMD FORUM”の開催
- (3) 多様で優秀な学生獲得のための、国内・国外向けウェブコンテンツの充実と情報発信の拡充
- (4) FutureLearnにおける新規コースの（British Library、CCRC(Cyber Civilization Research Center)との共同開発および既存7コースの再開講、塾生向け学部・大学院カリキュラムとの連携推進

■研究

【継続】

- (1) 論文データベースおよびウェブツールその他のツールを活用した、関連海外研究者等への研究成果の情報発信

■医学・医療

【継続】

- (1) 医学部ウェブサイトを通じた日本語・英語による情報発信力の強化
- (2) 研究成果の効果的なプレスリリースや、動画を活用した学部・研究科紹介など、広報活動の充実

■教育・研究・医療の環境整備

【継続】

- (1) 機関リポジトリ(KOARA)での研究成果の発信を強化するため、学術情報流通で使用される国際的な識別子の付与の推進

- (2) 図書館が所蔵する稀覯書の画像を国際標準の規格(IIIF)で公開する「デジタルコレクション」のコンテンツの拡充および学内外の機関と連携したデジタル展示の企画
- (3) ウェブサイトの計画的リニューアル（管掌：広報委員会）とそれを通じた継続的情報の発信

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) グローバルな視点にたった、VI(Visual Identity)ガイドラインの見直し(ガイドラインの英文化含む)
- (2) 海外協定大学等の広報担当とのネットワーク、英国オリンピック委員会(BOA)・同パラリンピック委員会(BPA)等との連携を通じた、海外における義塾のレピュテーションおよびプレゼンス向上策のための企画・立案
- (3) IR(Institutional Research)等のデータ分析に基づいた世界大学ランキングへの対応
- (4) ウェブサイト・SNS を活用した戦略的な英語による広報の企画立案、海外向け媒体(Facts and Figures 等)および様式(英語テンプレート)等の制作を通じたブランディング、Keio Translation Team による事務文書英語化の一層の推進、英語による広報の質と量の強化
- (5) 慶應オンラインへの導線を意識した塾員(卒業生)ホームページのサイト再設計と拡充
- (6) 慶應オンラインの認知度向上および登録を促進ならびに慶應オンラインを活用したさらなる情報発信および塾員相互間交流の活性化
- (7) 慶應メールの生涯メールアドレス化による、卒業生とのコミュニケーションの活性化
- (8) 「大学」および「一貫教育校」における学生・卒業生情報の一元管理の推進など塾員情報の充実を図る管理体制の構築
- (9) 英国ロンドンにおける日本留学フェア(Experience Japan Exhibition)の主催、中国の有力協定大学との連携強化のためのキャラバン(塾長講演等)の企画・実施、研究大学コンソーシアム(APRU、GCRUIN: Global Council of Research Intensive Universities Network 等)における活動、在日各国大使館ならびに海外大学訪問団等との合同企画等を通じた、海外における義塾のプレゼンス向上のための各種事業の企画・実施

3. 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金および小泉信三記念慶應義塾学事振興基金などの強化に基づく教育・研究事業の推進と奨学金の拡充

■教育

【新規】

- (1) 各基金の積極的利用の呼び掛けと、利用促進にともなう教員の専門性の底上げ
- (2) 体育会活動等への支援の充実(小泉基金)

【継続】

- (1) 「学問のすゝめ奨学金」、ならびに成績優秀者のための奨学金に係る効果分析とその結果に基づいた制度運営の再検証
- (2) 国の修学支援新制度との相乗効果を意識した、経済的困窮者のための奨学金の充実に向けた検討
- (3) 「東日本大震災」をはじめとする大規模自然災害被災学生に対する経済支援
- (4) 基金室、塾員センター、社会・地域連携室との協働による新たな寄付金の獲得

■研究

【新規】

- (1) 塾内の研究を広く海外に紹介することを目的とした学術書出版補助事業の対象の拡充（福澤基金）

【継続】

- (1) 海外渡航補助および大学院生・若手研究者への研究奨励（潮田基金）

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) 寄付者に対するタイムリーな情報発信と良好な関係（絆）の強化
- (2) 維持会基金への寄付金収入増を目的とした仕組みの構築に向けた検討
- (3) 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金および小泉信三記念慶應義塾学事振興基金の拡充に伴う寄付金の募集

4. 大学院生や若手研究者育成を目的とする、RA、研究奨励助教など、諸制度の拡充と奨学金の充実

■教育

【継続】

- (1) 博士課程学生の指導のための国内研究機関や産業界とのクロスアポイントメント制度の検討
- (2) 「研究のすゝめ奨学金」の継続、およびその他の大学院奨学金の充実に向けた検討

■研究

【継続】

- (1) 若手研究者・大学院生の国外研究活動を支援する助成金の強化充実
- (2) 若手研究者向け海外論文投稿支援
- (3) KGRIにおける Project Assistant Professor 等の雇用
- (4) 薬学部・薬学研究科における「Research Encouragement Award」による研究奨励

■医学・医療

【新規】

- (1) 大学院医学研究科修士課程の活性化の一環としてのアントレプレナー育成コースの立ち上げ

【継続】

- (1) 教育・研究環境の改善計画の推進
- (2) 学部教育、初期研修、後期研修と一貫した医学教育ポリシーの確立と実施・支援体制の構築
(Informative な教育から Transformative な教育への教育体制の強化)
- (3) MD 研究者育成プログラムによる研究医の育成の強化
- (4) 多様性のある人材育成のためのカリキュラム改訂
- (5) 慶應義塾大学医学部人材育成特別事業奨学金および各種奨学金制度の一層の拡充とフォローアップ

■法人部門の取り組み

- (1) 石井・石橋基金の活用を通じた事業の推進

5. 個人の主体性と選択を重んじながら、環境の変化や多様な価値観に即応できる柔軟で複線的な人事制度全般の充実、およびグローバル人材が活躍できる環境整備の促進

■教育

【継続】

- (1) 年俸制を活用した外国籍テニユアトラック教員採用制度の実施
- (2) 理工学部創立 75 年記念事業募金を原資とした国際人材育成基金・資金による、将来を担うグローバル人材の育成
- (3) 未来創造塾における「滞在型教育研究」の実践

■研究

【継続】

- (1) 研究のプレアワード、ポストアワードからアウトリーチまで対応すべく専門員 URA 制度ならびに特任教員制度の整備と充実

■医学・医療

【新規】

- (1) 薬剤部と薬学部の人材交流による連携の継続

【継続】

- (1) 診療支援部門・管理部門、医療事務における人材確保
- (2) 専門職の資格取得奨励やマネジメント能力強化策の充実
- (3) コメディカルスタッフの総合的・組織的な人材開発の展開

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 塾内における協生環境の推進に向けてワーク・ライフ・バランス、バリアフリー、ダイバーシティへの具体的な対応を可能にする「協生環境支援プログラム」の計画・実施

【継続】

- (1) 慶應義塾の教職員・学生・生徒・児童が互いの人格を尊重し、多様な価値観を認め、自他の尊厳に等しく敬意を払い、協力し合う協生社会の実現を目的とした「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」事業の推進

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) 高度な教育・研究・医療を支える専門性と能力を備えた職員の育成
- (2) 現場のニーズに対応し業務の専門性を高める研修の実施
- (3) グローバル社会における大学の対応力を高めるための職員研修の実施

- (4) 国内外の優れた教育・研究者を確保するための人事給与制度改革
- (5) 義塾の国際的レピュテーションの向上や外部資金の獲得・維持に寄与しうる「人事」制度改革
- (6) 義塾への貢献度に応じた役手当実現のための現行制度の精査と見直し
- (7) 国際発信力の高い研究者の雇用促進および次世代を担う若手人材の育成強化
- (8) シニア有期制度の積極的活用と、年代を問わず有為な人材が高いパフォーマンス力を発揮できる人事制度運用の促進

6. 一貫教育校における国際化のさらなる推進、少人数教育の実施および各校の教育における連携の強化

■教育

【新規】

- (1) 一貫教育校の国際化のさらなる推進に伴う交流プログラムの拡充
 - 1.1 英語で学ぶ初等教育課外授業
 - 1.2 中期派遣留学（Term 留学）プログラムの設置
 - 1.3 公益財団法人 日本台湾交流協会、台湾高校生日本留学受け入れ
 - 1.4 Downe House School、The Royal Masonic School for Girls（ともに英国）との交流
 - 1.5 普通部労作展の取り組みの（ウェブコンテンツによる）国内外への情報発信
 - 1.6 Punahou School（米国） パンパシフィックプログラムへの参加
- (2) 一貫教育校における少人数教育試行の実施および本格実施に向けた検討の推進
- (3) ニューヨーク学院改革（英語を主体としたカリキュラム、入学時日本語能力を重視しない入試、寮・教室一体型の教育の実施等）の推進

【継続】

- (1) 一貫教育校における少人数教育試行の実施および本格実施に向けた検討の推進
- (2) 一貫教育校における新たな校務システム構築による各校間の情報の連携促進
- (3) 台湾高校生日本留学事業受け入れをはじめとする一貫教育校の国際交流のさらなる活性化
- (4) 学校間の垣根を越えた一貫教育校教員の交流および連携のさらなる強化
- (5) 「慶應義塾一貫教育校派遣留学制度」における小学校レベルへの派遣の実現のほか、中学校レベルのさらなる拡充に向けた調査・検討
- (6) 一貫教育各校における国際交流事業の継続ならびに充実
 - 6.1 交換留学の充実（King's College School（英国）、St. John Bosco High School、The Bolles School（ともに米国））（高等学校）
 - 6.2 グローバルリーダー協育基金・資金の活用（高等学校）
 - 6.3 Keio Senior High School Summer Program の実施（高等学校）
 - 6.4 SGLI、日韓高校生経済交流会議への積極的参加および独自の国際交流プログラムの充実（志木高等学校）
 - 6.5 Rangi Ruru Girls' School、Columba College（ともにニュージーランド）、St. Michaels University School（カナダ）との国際交流プログラムの継続および新規国際交流プログラムの開拓（女子高等学校）
 - 6.6 7か国12校との国際交流プログラムの実施（湘南藤沢中・高等部）

- 6.7 横浜初等部と湘南藤沢中・高等部間の教科ごとの連携協議会の実施（湘南藤沢中・高等部）
- 6.8 湘南藤沢高等部における第二外国語教育の拡充ならびに湘南藤沢中等部におけるレベル別授業の細分化（少人数教育）の実施（湘南藤沢中・高等部）
- 6.9 普通部と Luostarivuoren Koulu（フィンランド）および Kolbe Catholic College（オーストラリア）との交流プログラムの継続（相互訪問、遠隔授業）（普通部）
- 6.10 Hockerill Anglo-European College、Cranford Community College、County Upper School、Harrow School（英国）との交流プログラムの実施（中等部）
- 6.11 Iolani School（米国）での研修プログラム（夏期ハワイ研修）の実施および相互交流（中等部）
- 6.12 Mohawk Day Camp、Punahou School（米国）、サマースクール、Dragon School（英国）の国際交流プログラムの継続（幼稚舎）
- 6.13 King's College Junior School および Wimbledon High School（英国）との交換留学プログラムおよび St Paul's School（豪州）への留学プログラム、さらにアイスランド国際体験プログラムの実施（横浜初等部）
- 6.14 英語(GC)、言葉の全クラス人数の半減化（横浜初等部）
- 6.15 ティームティーチングの実施（算数、理科、音楽、図画工作、体育、書道・古典、生き方科）（横浜初等部）
- 6.16 JST ジュニアドクター育成塾（小学5年生～中学3年生対象の高度な科学技術人材育成プログラム）の一貫教育校を巻き込んだ事業企画・推進（学術事業連携室）

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 入学試験手続きのウェブ化の実現に向けた検討

【継続】

- (1) カリキュラム検討委員会の立ち上げ（2017年度）と、当該委員会主導の少人数教育授業の具体的検討（2019/9/1＝HR棟に小教室×4新設）

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) 一貫教育校専任教員国外研修制度や少人数教育の検討等によるグローバル化に対応する教員研修の支援（欧米への学校視察・派遣など）
- (2) 学校間の垣根を越えた一貫教育校教員の交流および連携のさらなる強化に対する支援

7. 医療安全管理体制の強化、高度医療技術の開発、高水準の臨床研究の推進を図るとともに、オリンピック・パラリンピックへの対応や AI ホスピタル事業を通じた新時代の医療人の育成

■医学・医療

【継続】

- (1) グローバル展開を見据えた東京圏の国家戦略特区（医療分野）のための体制整備
- (2) 東京2020（オリンピック・パラリンピック）への協力をはじめとした、インバウンド向け医療

サービスの提供と院内体制整備

- (3) 患者目線に立った医療サービスや接遇の提供に向けた教育研修強化と行動指針に沿った意識改革
- (4) 医学部・病院が連携し、臨床研究中核病院としての橋渡し研究機能の強化と臨床研究を推進
- (5) 革新的な医薬品・医療機器の創出拠点として、首都圏 AR コンソーシアムの活動を推進
- (6) 予防医療センターの強化・拡充
- (7) 2号館改修および1号館新築工事（エントランス部・外構整備）の推進
- (8) バイオバンクの構築および実施
- (9) ゲノム医療実装のための体制整備

8. 高度化する世界の教育・研究・医療の潮流の中で、世界水準のデータ活用能力を発揮できる情報基盤の確立。そのための ICT ガバナンス体制の実施体制の充実、義塾の ICT 基本戦略立案とそれに基づく情報基盤への投資の増大、デジタルトランスフォーメーションの推進を通じた組織運営の効率化

■研究

【継続】

- (1) 文科省オープンイノベーション機構整備事業と連携した JST の OPERA プログラムによるイノベーション推進本部主導のメディカルヘルスケア領域産学共創プラットフォーム（PeOPLe 共創・活用コンソーシアム）構築の推進

■医学・医療

【新規】

- (1) 外来機能（救急）、手術、入院機能（ICU、HCU、一般病棟）の一体的運用の強化
- (2) 病棟・診療科・医療連携推進部を中心とした効率的で円滑な病床運用の確立
- (3) 委託業務の内容・品質・コストの見直しと管理体制の強化
- (4) 外来の各受付業務の内容と体制の見直し
- (5) デジタルサイネージの導入等による患者目線でのサービスの向上

【継続】

- (1) 外来受付フロー改善、受診体制（救急医療体制・総合診療体制）の見直し、初診枠の増加、各診療科の紹介患者受入条件統一による初診患者数増加
- (2) 医療連携推進フォーラム等、前方連携の推進による初診外来患者・新入院患者の増加
- (3) 後方連携強化（地域連携病院拡大）による効率的な病床運用
- (4) 問題状況の早期把握のための病院執行部と診療科の連携強化
- (5) 管理会計や診療情報の分析を活用した診療科別マネジメントの強化
- (6) 部門運営ヒアリングを通じた人員計画の立案と最適な組織運営の検討
- (7) 病院整備工事期間中の安全な患者動線の確保
- (8) AI、IoT、ビッグデータ技術を用いて AI ホスピタル化に向けた施策を展開し、医療サービス提供の効率化と教職員の負担軽減を推進
- (9) 教育コンテンツのデジタル化、ペーパーレス化の推進

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 教育活動支援・研究活動支援・病院活動支援・事務活動支援・情報基盤環境を5つの柱とするICT戦略の立案
- (2) ICTガバナンスの実施・推進体制の拡充
- (3) 湘南藤沢キャンパスにおける教室のデジタルツイン環境の構築に向けた検討

【継続】

- (1) 研究基盤の維持を目的とする、安定的な電子資源契約の確保
- (2) 2019年9月に開始した早稲田大学図書館と共同運用する、図書館システムの安定稼働によるサービスの向上、業務の効率化、コストの削減
- (3) 契約案件管理システムの構築（オープンイノベーション対象）
- (4) イノベーション推進のための管理区分会計システムの構築（オープンイノベーション対象）
- (5) 高度ネットワーク・コンピューティング環境基盤の充実と活用

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 電子決裁をはじめとする総務関連申請のオンライン化の推進
- (2) 会議等のペーパーレス化の推進
- (3) ICTを活用したバックオフィス業務の効率化（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- (4) IR(Institutional Research)の推進

【継続】

- (1) 人事制度全般の充実の基盤となる、人事部における情報環境（諸業務システムなど）の構築への取り組み

9. 知的財産に関する戦略の構築と研究成果の事業化・産業化の推進

■研究

【継続】

- (1) 大学の研究成果としての知的財産権の確保・維持管理・活用に関する規程等の再整備
- (2) Technology Licensing Organization(TLO)機能の充実による、大学が保有する知的財産権の技術移転の推進
- (3) イノベーション推進本部を中心としたイノベーションエコシステムの構築ならびに産学連携の推進と社会貢献
- (4) 株式会社慶應イノベーション・イニシアティブとの協働による大学発ベンチャー創出支援と成功事例の加速
- (5) 鶴岡、新川崎、殿町、各タウンキャンパスにおける先端的な研究の推進と新産業・新事業の創出

■医学・医療

【新規】

- (1) 知的財産の創出と運用の強化

(2) 健康医療ベンチャー大賞、産学連携講演会などの開催

【継続】

- (1) 技術移転のさらなる活性化とリエゾン機能の強化および産学連携のための企業会員組織の構築
- (2) 職員、専門員 URA、その他専門スタッフの充実、および組織的な産学連携・研究支援体制の確立
- (3) 企業研究者受入れの仕組みの再構築
- (4) 知的財産教育、アントレプレナーシップ教育、イノベーション人財教育の充実

10. 情報セキュリティインシデント対応チーム(CSIRT)を構築し、サイバーセキュリティ体制の一層の整備・強化

■教育

【継続】

- (1) 理工学研究科、メディアデザイン研究科と情報セキュリティ大学院大学など全国 5 大学の連携によるセキュリティ分野における大学院教育「実践セキュリティ人材育成コース(Sec Cap)」の実施

■研究

【継続】

- (1) サイバーセキュリティの研究対象としての推進や情報共有・情報発信の強化

■教育・研究・医療の環境整備

【継続】

- (1) 情報セキュリティインシデント対応チーム(CSIRT)を創設するため、人員体制など組織面とサイバーセキュリティ攻撃への対応手段の整備など運用面の両面からの準備の推進
- (2) 最新のセキュリティ技術を適材適所に導入し、安心して使えるネットワーク・コンピューティング環境の提供
- (3) 情報セキュリティ関連規程・内規や各種ガイドラインの整備・拡充

11. 教育・研究・医療のコンプライアンスに関する法務体制の強化

■研究

【継続】

- (1) 研究倫理教育・研究コンプライアンス教育の推進
- (2) 研究不正ならびに研究費不正への適切な対応
- (3) 利益相反マネジメント体制の刷新、部門間連携の強化
- (4) 安全保障輸出管理の対応・体制の整備

■医学・医療

【新規】

- (1) 特定機能病院・臨床研究中核病院として、質の高い医療安全管理の推進

(2) 労働安全衛生法上のリスクアセスメントの実施と薬品等危険物の適正な管理体制構築

【継続】

- (1) 医師の働き方改革に合わせた診療体制と仕組みの実現
- (2) 個人情報保護、法令順守、利益相反防止および被験者保護をはじめとした臨床研究倫理教育の強化
- (3) 臨床研究の適正な実施体制の整備
- (4) モニタリングとコンプライアンス教育の充実・強化
- (5) 研究費不正使用ならびに研究不正への迅速な対応体制の強化
- (6) 安心、安全な医療情報・臨床試料の二次利用のための包括同意の策定および実施
- (7) 全塾の方針と連動した医学部の産学官連携ポリシーおよび利益相反等関連運用内規の整備、公開

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 教職員を対象とした法務に関する研修会の開催とコンプライアンス意識の共有

【継続】

- (1) リーガルアドバイザーとの連携による、学校現場で生じる様々な案件の法的根拠の確認の常態化

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) ハラスメント防止のための施策の積極的強化とより効果的な啓発活動の実施
- (2) キャンパスにおける安心・安全・協生の維持・向上、ならびに学生生活におけるリスク啓発と地域社会との協生にむけた施策の全学的実施

【継続】

- (1) GDPR（欧州データ保護規則）をはじめとした、海外における法務関連動向の情報収集と各種対応への体制強化
- (2) 慶應義塾リーガルアドバイザー委員会および関係部門による、法務対応の連携強化を目的とした連絡会の実施

1 2. リカレント・生涯教育の推進と拡充、社会・地域連携の推進

■教育

【新規】

- (1) 大学との関係構築を目指す卒業生データベースの充実化
- (2) 三田オープンカレッジの充実とリカレント・生涯教育の体系化の検討

【継続】

- (1) JST リサーチコンプレックス推進プログラム終了後のジュニア・学生・大学院生・社会人対象の人材育成プログラムの自立化
- (2) 薬剤師の生涯学習支援を目的に薬学部生涯学習委員会が立案する公開講座の開催
- (3) 薬剤師認定制度認証機構が認証したプロバイダーとしての研修認定薬剤師の認定
- (4) 経営管理研究科、システムデザイン・マネジメント研究科における文部科学省「職業実践育成プログラム」の認定、及び、厚生労働省教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の講座指定の継続

- (5) 日吉キャンパス公開講座における地域住民・塾員への生涯教育の機会の提供
- (6) 校内自然観察会主催（2回/年）を通じた周辺地域の住民を対象とした生物・地学に関するリカレント教育（講座）の実施
- (7) クラブ活動（ラグビー、バスケットボール他）を通じた低学齢の児童へのスポーツ指導

■周年事業・社会貢献・地域連携

【新規】

- (1) 社会・地域連携に関する情報収集の充実と効果的な発信の強化、国内外における慶應義塾ブランド向上のための全塾的発信

1.3. 学術資料展示施設の開設準備の加速化

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 文化遺産アーカイブのための5Dスキャニング環境の構築に向けた検討
- (2) 慶應義塾大学三田キャンパス 福澤諭吉記念慶應義塾史展示館の整備

【継続】

- (1) 慶應義塾ミュージアム・commons竣工から稼働までの建設計画の推進（2019年春着工、2020年8月竣工予定）および2021年春オープンに向けた準備の加速
- (2) コンテクストネットワーキングによるデジタルミュージアム基盤の研究開発

1.4. 東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国チームの受け入れを契機とした、国際的なレピュテーションを向上させる施策立案と実施

■教育・研究・医療の環境整備

【継続】

- (1) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けての英国選手団の事前トレーニングキャンプの受け入れおよび関連事業の展開
- (2) パラリンピック英国チーム受け入れを契機とした日吉施設のバリアフリー化の整備

■周年事業・社会貢献・地域連携

【継続】

- (1) 東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国選手団の事前トレーニングキャンプ受け入れ支援のための横浜市・川崎市との地域連携ならびに英国との国際連携

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) BOA、BPAの事前キャンプの円滑な受け入れと国内外への情報発信

15. その他

■教育

【新規】

- (1) 先端生命科学研究所-薬学研究科合同リトリート「総合システム適塾」の推進
- (2) 矢上キャンパス隣接地の国際学生寮（仮称）の新棟建設
- (3) 健康マネジメント研究科における「医療経済評価プログラム」の実施（国立保健医療科学院「医薬品及び医療機器等の費用対効果評価のための人材育成プログラム開発」受託事業）
- (4) 政策・メディア研究科におけるカリキュラムの評価とリ・デザインの検討

【継続】

- (1) 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン「薬学がん専修コース」の推進
- (2) データ関連人材育成プログラム「医療・創薬データサイエンスコンソーシアム」の推進
- (3) 社会の変化、とりわけ 2024 年度の新学習指導要領に対応するための学部入試改革の検討
- (4) 理工学研究科における産学連携の実践型人材育成を目指した長期インターンシッププログラムの推進
- (5) 理工学部、総合政策学部、環境情報学部と東北大学を中核とする全国 14 大学および産業界の連携によるセキュリティ分野における学部教育「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」の実施
- (6) 理工学研究科、メディアデザイン研究科と情報セキュリティ大学院大学など全国 5 大学の連携によるセキュリティ分野における大学院教育「実践セキュリティ人材育成コース (Sec Cap)」の実施
- (7) 医看薬 3 学部連携医学教育の推進による、グループアプローチ実現のための医学教育基盤整備
- (8) 総合政策学部、環境情報学部における山形大学（農学部・農学研究科）および鶴岡工業高等専門学校との単位互換制度の実施
- (9) 健康マネジメント研究科・経営管理研究科・大学病院における「ケースとデータに基づく病院経営人材育成」プログラムの実施（文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム）
- (10) 健康マネジメント研究科における「がんゲノム医療を支える専門看護師コース」および「がんライフステージケア研究コース」の実施（文部科学省 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン）
- (11) 看護医療学部・健康マネジメント研究科におけるオリンピック・パラリンピックに向けた国際交流、人材育成のためのプログラムの実施
- (12) 看護医療学部・健康マネジメント研究科における学部大学院一貫 5 年教育の準備

■研究

【継続】

- (1) 研究連携推進本部・イノベーション推進本部ならびに学術研究支援部門の連携による研究の入口から出口までの研究推進の支援
- (2) 基礎研究から応用研究、社会実装までの研究費（公的資金ならびに産業界との受託・研究共同研究資金等）の戦略的獲得
- (3) Co-Funding 等を活用した海外研究資金の戦略的獲得
- (4) 医学部・薬学部連携による「免疫ホメオスタシス維持による長寿クラスターの基盤整備」の推進
- (5) 薬学部「創薬研究センター」の産学連携拡大のための研究基盤整備

(6) 医工薬連携による創薬研究基盤の発展および高度化

■医学・医療

【新規】

- (1) 新規基礎医学講座の開設
- (2) 民間資金受入れの新たな制度の構築
- (3) 大阪大学との“適塾”連携体制の強化、沖縄科学技術大学院大学（OIST）および東京藝術大学との連携協定の締結
- (4) 全体最適化の構築を目的とした、各部門活動状況の見える化の推進

【継続】

- (1) 長期的将来構想に基づく、事務スペースの集約化や教学スペースの拡充、白梅寮解体後の跡地プラン、学生用運動スペースの確保の検討
- (2) アドミッションズオフィス機能の充実と入試制度改革の実行
- (3) 大型公的（競争的）研究資金の戦略的獲得並びに民間研究助成金の採択確度向上と新規開拓
- (4) 学部間・キャンパス間連携を強く意識した研究体制の拡充
- (5) 理工学部との医工連携研究の強化、文理融合教育の推進
- (6) 新専門医制度に対応した慶應関連病院ネットワークを用いた専攻医教育体制の確立
- (7) 関連病院とのネットワークの強化
- (8) 各種機関とのより強固な学外ネットワークおよび、優れた人材の流動性が高まる仕組みの構築の推進
- (9) 医学部における財務体質の強化策の検討

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 総合政策学部、環境情報学部における新カリキュラムのデジタル支援環境の構築に向けた検討
- (2) 未来創造塾ウエスト街区（学生寮整備）計画の推進

【継続】

- (1) 大学（日吉）新記念館の安定運営・管理体制の確立（2020年3月竣工）
- (2) 日吉キャンパスの安心・安全・快適に向けた環境整備の強化
 - ・自然災害の未然防止のため、キャンパス内（下田地区を含む）の植栽・樹木や崖地の計画的整備
 - ・地域社会との融和も含めた安心・安全なキャンパスライフのための警備・防犯体制の継続的な整備
- (3) 湘南藤沢キャンパスにおける学生の滞在環境の改善
- (4) 大学病院1号館（新病院棟）建設に伴う周辺整備工事等
- (5) 義塾の知的資産を生かした領域横断的な研究・教育用のデジタルコンテンツの制作
- (6) デジタルメディア技術を活用した塾内イベントの記録
- (7) 義塾のデジタルアーカイブの閲覧利用システムの開発

■環境問題への取り組み

【継続】

- (1) 省エネルギー対策の継続的实施
- (2) Sustainable Development Goals（以下SDGsと略す）を見据えた新たなエネルギー対策の検討

(3) 慶應義塾学校林での植林・育林など、SDGs 達成に向けた環境教育活動の推進

■周年事業・社会貢献・地域連携

【新規】

(1) 湘南藤沢キャンパス開設 30 周年事業（顕彰展示の整備、30 周年記念成果出版等）の実施

【継続】

- (1) 75 周年記念事業を契機とする、「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」の実践と、多目的棟（小ホール付き）の建設計画の推進
- (2) 薬学部附属薬局無菌調剤室の地域薬局への開放
- (3) 薬学部・体育研究所・薬学部附属薬局が連携運営する「健康づくり教室」による地域住民の健康維持・増進のサポート
- (4) 薬学部医療薬学・社会連携センター社会薬学部門と薬学部附属薬局が実施する地域住民の生活習慣病予防・早期発見を目的とする血糖・コレステロール・口腔内環境測定イベントの開催
- (5) 「慶應義塾 150 年史資料集」第 3 巻（諸統計資料集成）、第 4 巻（慶應義塾刊行物解題）の編纂
- (6) 湘南藤沢キャンパスにおける湘南台駅からの鉄道延伸計画の一層の推進のために、神奈川県、藤沢市と共に行うまちづくりの推進

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) 慶應義塾と関わりのあった教員、研究者との継続的な関係の維持および深化
- (2) 慶應義塾関係者の人的情報の統合的な収集・管理・運用
- (3) 信濃町キャンパス（大学病院・医学部）における経営改革の継続、新病院棟完成後の収支改善
- (4) 補助金や外部資金のさらなる獲得推進と新たな財源確保
- (5) 事業活動収支差額比率 6%程度の安定的確保
- (6) 塾内における SDGs の各指標に適合する活動の情報集約とそれに資する社会貢献活動についての国内外への発信

スーパーグローバル大学創成支援事業第Ⅲ期中期計画（2020-2023年度）について

慶應義塾はかねてより、義塾の「基本方針と大綱」（前掲）に基づく事業計画を年度ごとに策定し、諸施策の立案と実施に努めてきた。2014年7月、評議員会において塾長から「世界に貢献する研究大学としての慶應義塾の方向性」が示され、教育・研究・医療におけるグローバル化は一層推進されることになった。その重要な一歩として、同年9月、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」（2014年～2023年度）の採択を受けるに至った。義塾の掲げた事業の構想テーマは、「実学（サイエンス）によって地球社会の持続可能性を高める」である。以下では、同事業における中期計画について述べる。

構想実現のために義塾が公約したさまざまな数値目標を達成するためには、同事業の着実な推進に加え、近未来に備えた慶應義塾のあり方を広く検証し、不断に改革していかなければならない。そこで、これからの義塾の歩みを段階的に区分し、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の中期計画を策定してきたところである。

スーパーグローバル大学創成支援事業第Ⅰ期中期計画（2015-2016年度）については、平成30（2018）年2月22日に文部科学省による中間評価結果が発表され、慶應義塾の評価はAであった。

第Ⅱ期中期計画（2017-2019年度）では、第Ⅰ期中期計画の実績を基礎として、「広報」、「国際化」、「人事」を重点領域とする事業の推進・実現を目指した。また、同事業の核である「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターにおける高度で学際的・国際的な教育・研究の成果を広く世界に発信する基盤を再構築し、積極的な情報発信も強化に向けて推進した。

第Ⅲ期中期計画（2020-2023年度）においては、補助金事業終了（2023年度）以降の持続可能性、すなわち「自走化」を確実にする。まず、その基盤となる財源については、2023年度に総額90億円となる基金の造成を着実に進める。次に、第Ⅰ期・第Ⅱ期に実施した、教職員学生の国際化や海外への情報発信を促進する各種施策から得られた知見や教訓を踏まえ、第Ⅲ期では、特に、3つのクラスターにおける国際共同研究の活性化支援と大学院の国際化に力を入れる。さらに、スーパーグローバル大学創成事業の構想「実学（サイエンス）」によって地球社会の持続可能性を高める」を拡充し、慶應義塾全体のSDGsへの取り組みと融合することにより、「世界に貢献する研究大学」としてのみならず、初等中等教育段階までを包含する、真にグローバルな学塾の実現を目指す。